中国古典名言録 出版記念フォーラム

中日朝英四カ国語「グローバル時代の人間学 中国古典名言録」の刊行を受けて、財団法人人間自然科学研究所は小松昭夫理事長、魏亜玲博士（理事）、堀江研次広報担当の三人で訪中、北京の学苑出版社（孟白社長）にて二〇〇八年十二月六日、出版を記念したフォーラムが同出版社の主催で開かれた。会議ではこの名言録が、二十一世紀人類に「和諧世界」と、日本の「和譲」、そして米国の「スマートパワー」をつなぐ鍵であるとの認識が示され、世界の多くの方々に人類共生文化が生まれるために中国古典を読んでいただきたいとの声が相次いだ。

この座談会には邢雁・中国画報協会会長、張可喜・中日経済文化協会北京事務所長（元新華社通信日本代表）、李暁明・大連三高機電控制有限公司、孟白・学苑出版社社長、駱為龍・中国社会科学院日本研究所元所長、張承鈞・元盧溝橋抗日記念館館長、唐暁輝・中国人民抗日戦争記念館副館長、梁継紅・中国人民大学助教授、魯永学・中央編訳局日文処長、大濱慶子・中央編訳局外籍専門家、張燕嬰・中国国家図書館副編審などが出席。今回の出版の意義について意見交換し、多くのマスコミの同席取材を受けた。また懇親会には邵鴻・九三学社中央委員会副主席も出席、意見を交わした。会議の様子をレポートする。

巻頭言

人類は、核拡散、温暖化、金融混乱、健康不安など地球規模の危機に直面し、「衰退か進化か」の分水嶺に立たされています。環境・健康という根源的問題に世界規模で取り組むためには、歴史の中で生まれた国家・民族間の怨念を昇華し、話し合いのできる強固な平和の基盤を創ることが必要です。

北東アジアには二十世紀の戦争の残滓が色濃く残っており、今も加害国と被害国の間では反感と不信が再生産され続けています。この地に縁のある人々の見識に、人類の未来が係かっているといっても過言ではありません。

加害の歴史をもつ日本国と、国連常任理事国であり被害の歴史をもつ核大国の中華人民共和国から、被害の歴史をもつ大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国と、国連常任理事国であり核大国の、アメリカ合衆国、ロシア連邦に呼びかけ、和譲、和諧の平和事業を興し、朝鮮半島と日本列島を世界恒久平和の発祥地にするときです。この事業が動き出せば、対立にあえぐ紛争地帯の国民に、勇気と希望をもたらすでしょう。

この名言集は、数千年にわたって引き継がれた人類の至宝である中国古典から、今日的課題の「平和・環境・健康」に関する名言を抜粋し、中日朝英の四ヶ国語で編纂いたしました。本書の発刊を契機に、飛躍的に発達した科学技術と情報通信網により、叡智の生まれる議論の輪が世界に広がり、「対立の文化」から「共生の文化」への止揚が始まることを願っています。

出版にあたり、学苑出版社と各国関係者のご尽力に対し、深甚なる感謝の意を表します。

財団法人 人間自然科学研究所
理事長 小松昭夫

孟白学苑出版社社長　ご来場の皆さん紹介いたします。

こちらが小松昭夫先生です。この本は小松先生が企画しました。そして専門家の学者にこの本を、編集、翻訳、出版をするように依頼してくれました。小松先生はこの本の創始者です。

こちらは魏亜玲博士で、小松先生の研究所のスタッフです。私たちと小松先生との交流の架け橋です。毎回、博士を通じて小松先生と交流しています。私は日本語が一つもわからないから。

広い海からわずかな言葉を選ぶ（孟白）

孟白氏▶

李先生は大連から来ました。十五年前、日本の島根大学院留学中に小松先生と知り合い、それからのよい友達ですし、仕事のパートナーでもあります。

梁継紅女史、人民大学の教師で、張燕嬰女史と一緒に紹介します。この二人はこの本の特別の編集者です。大量の古典の中から選び抜き、編集して、文語文を現代文に訳しました。

もう一人は中華書局の孫先生です。彼ら三名でこの仕事を行いました。中国古典から選び抜き、編集するという仕事は本当に大変難しいことです。「広い海からわずかな言葉を選ぶ」と表現しても、誇張ではありません。その上いくつかのテーマを選び、いくつかの分類に分けて、各学派のイデオロギーを体現しなければならないのです。儒家でも、道家でも、軍事家でも、医学家でもみな難しい。

こちらのきれいな女史は、駱先生が紹介された方ですか？

魯永学・中央編訳局日文処長　そうではなくて、我が中央翻訳局の大濱慶子さんという日本語専門家です。

孟　魯先生は中央翻訳局の専門家です。こちらは駱為龍先生です。私達の先生でもあります。私たちのために厳しい検査をしていただいた方です。

張先生は元抗日記念館館長です。いまは定年退職されて家にいらっしゃいますが、ご自身のやり方で、ほかの学術的平和事業に関わっておられます。

唐副館長は若い副館長です。後ろには何人かのメディア関係者が来ています。今日、わざわざ来ていただき、大変感謝しています。

今日の座談会は、まず私のほうからこの名言録の編集、出版の過程を簡単に紹介し、次は馬さんから補足していただきます。それからご臨席の専門家の方々から感想とか、考えなどをいただきたいです。最後、小松理事長からこの本を出版した想いをお話いただき、それから現在従事している広大な事業について皆さんに紹介します。会議が終わってから、夕食会を手配しておりますので、皆さんのご参加をお願いします。以上が本日のスケジュールです。

続きまして、この本の由来を簡単に紹介させていただきます。五年前、わが出版社は張碧清先生、駱為龍先生から日本の友達を紹介してもらって、何冊かの日本語の書籍を出版しました。それはすべて政治に関する書籍、または中国に友好的な日本人が書いた本でした。

四年前に、何人かの日本の友人が来られ、座談会が開かれました。そのときは蕭向前先生が主宰しました。張碧清先生から座談会の場所を貸してもらえませんかと聞かれ、喜んで引き受けました。そのきっかけで小松先生と出会いました。そのとき小松先生は一つの願望を話されました。以前、小松先生は専門家に頼んで「論語」（中日英三カ国語）を出版されており、また中国の古代の名言を編集し、出版したいとおっしゃいました。「毛沢東語録」のように、古典の名言を中国語、日本語、韓国語、英語の四カ国語で書いた目的は、中国人以外、たとえば日本人、韓国人、及び欧米人に中国の伝統文化を理解させ、平和、健康な発展理念を知らせたいためです。

最終目的は世界の人々から対立と抗争を取り除き、理想的な平和を達成することです。これはとても素晴らしい願望で、究極の目的です。小松先生の考えをとても良いと感じましたので、ぜひ実現するように望んでいます。そしてわが社がこの本を出版することに決まりました。翻訳を含め、四年間にわたってとてもハードな仕事でした。内容の正確さを重視するため、特に読者の正しい理解のために、原稿の内容は何回も繰り返し変更されました。翻訳も繰り返し、工夫しました。これは、これまで出版された本とぜんぜん違います。私の話は少しも誇張ではありません。以前出版された中国古典に関する外国語翻訳の本は、正しく表現されていませんでした。この本が正確な表現です。

小松理事長（中央）あいさつ▶

今年五月に、この本を正式に印刷しました。小松先生がとても喜んで感謝の言葉をくださったため、ぜひ作者たちと会える機会をつくりたいと思いました。さらに、この機会を借りて、小松先生の理想と理念を出席者に理解していただきたいのです。だから、今日ここで皆さんに集まっていただきました。わが出版社はこの本を出版した後、多くの学者、専門家にプレゼントし、いくつか評価をいただきましたけれども、このように会議を行なったことはありません。以上、簡単ですけれども、もし言い漏らしたことがあれば、後で補足させていただきます。

この本の原本は張燕嬰博士と梁博士が編集しました。原本はお二人の手でできたものです。当初の編集方針や考えについて、皆さんに紹介してもらえませんか。

張燕嬰・中国国家図書館副編審　この本の編集を引き受けることができたのは、私にとってとても良い縁でした。しかし内容の幅が広くて難しいと感じました。そのとき指導教官から信用をいただき、この重任を引き受けました。具体的な作業に入りまして、表現できる内容より学習すべきものがもっと多いと感じました。

私は博士課程を修了しましたけれども、研究分野はとても狭く、戦国時代に限られ、普段の研究もただ自分の研究分野しか関心を持っていませんでした。

この本の編集は自分の専門である戦国時代をはるかに超えました。この機会を利用して、私の研究分野を広げることができ、視野が拡大されました。小松先生がおっしゃった「和譲、和諧、健康」という発展理念は、中国思想の真髄を反映しています。私は儒家の研究をしていますので、孔子の「和而不同（和して同ぜず）」思想は、特に感慨深いです。この思想は、今日のこの多極社会に確かに適用されるのです。

一人だけの声、ただひとつの音声だけがこの世界にあるのではありません。多種の音声が和諧世界では存在しています。これは中国思想の真髄で、小松先生が以前に出版された「論語」（日中英三カ国語）の巻頭言に「和而不同（和して同ぜず）」が記載されているのを見て、とても感心しました。

孟　張さんの指導教官は北京大学の教授です。この場を借りて彼女の指導教官である孫大成教授を紹介いたします。わが出版社は九三学社に属し、孫教授は九三学社の副主席です。普段、私たちはよく交流しています。

最初、小松先生からこの本のことを聞いたあと、彼と話しあいました。ここ数年、孫教授はずっと中庸の普及に力を尽くしてこられました。この本を利用して世界中のさらに多くの人々に中国文化の真髄を理解させると孫教授は言われました。

彼に何人かの作者を推薦することをお願いし、二週間後に返事をいただきました。編集者にとって一番大事なことは真剣さです。次はレベルの高さです。でも、真剣であることが第一です。だから彼にこの二人の女史を推薦してもらいました。

それからもう一人の年配の方、中華書局のある先生に依頼して、審査をしていただいています。小松先生は以前、「論語」（日中英三カ国語）を出版しましたが、今回のこの本はすでに儒家思想の分野を超えています。春秋戦国時代までに立ち返れば、儒家はその思想家の一つです。道家もあるし、軍事家もあるし、医学家もあるし、百家争鳴（ひゃっかそうめい）と言えます。

この本は儒家思想を超えています（孟白）

孟　中華文化の体系は、例えば医学も含んで、商業さえ含んでいます。それらの思想は中華文化を支えています。でもこの本はすべてを網羅しているわけではありません。何回も繰り返した編集作業の原因は、そこにあります。

学派の多くは儒家から出てきましたが、一部は道家から出てきた儒家に入りました。これも一つの融合です。たとえば太極拳のように、ぐるっと遠まわしにきます。その脈絡をきちんと整理するのも非常に困難です。わが出版社は、以前はたくさんの医薬学の本を出版しましたので、中国の伝統的な医薬学に対してよく知っています。そして今は「養生」「健康」などの言葉を使って分類しています。

つまり、お互いに入り交じる問題は、脈絡と筋道を確立させることが非常に大変です。

ヨーロッパやアメリカの人々は、孫子の兵法のような中国の軍事家に興味があるようです。このような思想はだいたいビジネスに応用されます。しかし編集を始めるとき、二人の女性博士にしても孫先生にしても、この本が欧米市場の好みに迎合するために編集するのではないとの共通認識がありました。

古代の祖先たちの知恵を体現するため、特に融合と共生、もし中庸の思想を含むならば、鬼道、軍事などの内容を入れるべきではありません。これも編集時の一つの考えでした。だからその辺の内容がほかの分野より少なくなっています。以上が私からの補足です。

次は、張可喜先生を紹介いたします。張先生は元新華社の高級記者で、数年間日本に住んでいました。

張可喜・中日経済文化協会北京事務所長（元新華社通信日本代表）　私は日中科学技術文化交流センターの張です。よろしくお願いします。

梁継紅・中国人民大学助教授　四年前に、この本の編集に参加する機会がありまして、とてもうれしかったです。私にとっていい勉強になりました。今回この仕事を通じて、古典の大掛かりな探索をすることができ、すごく楽しかったです。形式から内容までの確立に、けっこう長い時間かかりました。とても良いパートナーシップができて、みんなよく協力しました。私にとって大いに収穫がありました。

魯　私は中央編訳局日本語担当の魯永学です。こちらはうちの日本語専門家大濱慶子です。

この本の翻訳仕事を参加させていただき、私にとって良いチャンスになりました。光栄なことです。この一年間は、任務重大でした。この本を初めて読むとき、特に内容を読むと、翻訳はハードな仕事だと思いました。薄氷を踏むような感じがしました。

なぜかというと、中国の文化、特に儒家について、日本人の研究レベルは私たちにひけをとらない。特に文化大革命の間に、日本人が中国の古典、文化を吸収し、自分の文化の一部として使っていました。アジアの国々は、日本だけは漢字を残していますが、韓国など多くの国はすべて漢字が要らなくなりました。日本人はこれらの古典を吸収し、良いものと考えました。だから彼らの中国古典に関する研究は私たちよりも深いと言えます。

同じ内容の説明でも日本のほうが私たちよりもっと詳しく、幅広いです。私たちがこの仕事をしたとき、中国語の原文を白話文に訳されたことを知りました。だから日本語を訳すとき、白話文を尊重する必要がありました。私たちの仕事はその古典の原文の意味を翻訳するわけではなくて、最新版の内容を尊重して、最新の条件の下で解釈することです。

それは百年前、あるいは五十年前の権威的なバージョンではなく、今日の権威からの説明です。だから私たちは選択する必要がありました。中国語を日本語に翻訳した後に、ほかの日本語を参照しながら、バランスを保たなければいけません。

この本の内容は非常にすばらしいです。中日文化の融け合いには、二、三千年以上の歴史がありますが、明治維新以後日本人が中国文化を受け取ることは少なくなりました。その前はよく研究していました。日本の現代化に従って、さらに欧米のものを吸収する傾向となりました。

さっきそれぞれ先生がおっしゃったように、現在は軍事兵法の研究が盛んに行われています。私たちは良いものを再び掘り出して、和諧を主張します。最近の金融経済危機は、東西文化がもう一度融合するシンボル、あるいは一つのきざしです。今の時代は和諧という理念が必要です。米国にしても、中国にしても、あるいはヨーロッパ、日本、さらに全世界に対して、「共生」は永久のテーマです。だから私たちはこの理念を掘り起こさなければなりません。

蕭向前 中日友好協会副会長宅訪問
「ドイツを超えます」力強く表明

右から馬紅治編集長、李暁明社長、張可喜所長、小松理事長、蕭向前副会長、魏亜玲理事、蕭向前夫人、張可喜夫人＝自宅にて

小松昭夫理事長は十二月六日に開かれた座談会に先立ち、一九七二年に調印された「日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明」（日中共同声明）の橋渡しに尽力された蕭向前・中日友好協会副会長の自宅を張可喜元新華社通信日本代表とともに訪問した。

小松理事長は完成した名言録を蕭向前氏に贈呈し、同年十月に京都と広島、松江市で開催した第六回国際平和博物館会議を報告。韓国の金鎬逸・安重根義士紀念館館長、宋錫源・慶熙大学校日本研究所長、小松理事長の、四カ国語による論文集「対立の文化から共生の文化へ」を贈った。

蕭向前氏からお歓びの言葉をいただいたのち、参加者全員でDVD「安重根と伊藤博文」を鑑賞。かつてばばこういちキャスターの番組「永遠の隣国として」（二〇〇四年十二月二十五日放送）にて小松理事長を囲んだインタビューに答え、日本の今後を案じ「ドイツを見習いなさい」とご発言されたことに対し、小松理事長は別れ際、蕭向前氏の手を握り「ドイツを超えます」と力強く表明した。

国民国連構想を北京から問う

厳選624本、若き研究者が努力

私たちはこの有意義な仕事に参加させていただきました。何回も何回も書き直しました。完全に満足したとは言えないですけど、とても意義ある仕事と思っています。

駱為龍・中国社会科学院日本研究所元所長　魯先生のお名前はかねて承っていますが、二人の博士は若いですね。君たちは北京大学出身なのでしょうか。私たちは同窓です。私は新聞関係者ですので、孔子、孟子について深い研究をしていません。でも、日本ではそれらの本をたくさん見ます。私も何冊か買いました。この本をよく理解するために、日本で日本人によって編さんされた「孔子」、台湾で出版された「論語」を買いました。台湾のそれは内容が浅くて、漫画でした。日本版については魯先生の意見に賛同します。彼らはある面で、私たちに比べて、かなり工夫しています。注釈や、説明は非常に詳しい。

この本に私はすごく感心しました。この本はいくつかの特徴があります。内容はまだ深く研究していないのですが、第一の特徴が幅広さです。日本による中国古典研究は内容が詳しいのですが、幅が狭いのです。この本は論語だけではなく、孔子、孟子、荀子、さらに宋代まで言及していました。また、第八章を追加して、養生も入れました。これは小松先生から補充された内容です。多彩と言っても言い過ぎではありません。

第二の特徴、作者から翻訳者まで本当にたくさんの優秀な専門家が多く集まって編集されたことです。編集者が所属しておられる北京大学中国語学部は国内トップと評価されています。今中国国内で論語の出版がものすごく盛んです。しかしこんなに厳格ではありません。

第三の特徴は四カ国語を使ったことです。これは歴史上でもそう多くありません。以前にあったものは中日、中英の二種類でした。四カ国語の意味は、アジアに向かって、また世界の英語圏に向かって、さらに全世界に向かいます。全世界の孔子学院は、この本が必要と思います。多国語でそろっていますから。

もちろん欠点がないというのではありません。重すぎるので、便利ではありません。また、同時に三カ国語がわかる人が少なく、四カ国語はいうまでもありません。私は文語、白話文が読め、また少しの英語、日本語が分かりますが、それでもこの本を読む能力としては十分ではありません。

提案があります。今度は日本の文庫本のような小冊子を作り、小さく軽くして、一カ国語ずつ出して、その国家はその国家の言語を使えばいいのです。たとえば朝鮮に行くときは朝鮮語版だけ持っていって、英語圏だったら英語版だけを使えるように。

（**小松**　この意見はとても良いです）

駱　日本の文庫本は非常にいいもので、小さくて安くて、小中学生、主婦にも大人気です。出勤する人はポケットの中に詰めて、電車の中でも読めます。今度日本の文庫本を見てください。表紙も地味なほうがいいと思います。

最後に、この本の印刷と製本はとてもすばらしい。帯がまだ出来ていないとき、見本を専門家に見せてあげましたが、高い評価がされました。最初は自信不足で、表紙もそんなに派手じゃなくてもいいかなと思いましたが、専門家たちの高い評価を頂いて、うれしかったです。色は重々しくて、強い気迫を感じました。本の内容とぴったりです。この点は肯定するべきです、これは孟社長と馬さんの努力です。

ここで孟社長と馬さん、この二人の人物について言わなければなりません。馬さんはとても若くて、物静かな方です。何度も私の家に来ました。このような優秀な編集者は少ない。出版社が本を出版するのは、利益のためだけではありません。この本もそうです。お金は追求せず、高品質を求めたのです。

以上は私の意見ですが、私の専門が日本研究ですので、間違いがあればご指摘ください。

張可喜　小松先生によるこの本の出版はとてもすばらしい。彼は東方文化、東洋文化を世界に伝えるために貢献しました。心から敬意を表します。彼の構想を応援しています。応援者として、私はとても光栄です。また、孟社長、馬さん、及び作者の方々、大変お疲れ様でした。皆さんは素晴らしいことをやりました。

東方文化は「和」、あるいは「和為貴（和をもって尊しとなす）」を強調します。これは孔子が言及した思想です。

一方、西方、キリスト教の文化、特に米国のあらゆる行為を見れば、あれは「和」ではありません。「戦い」、「闘争」――他人を強制的に服従させることです。

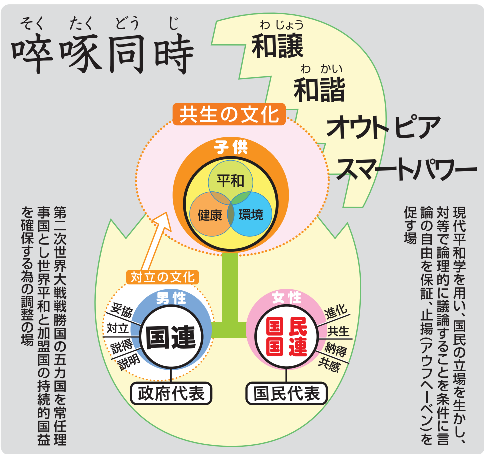
小松先生がおっしゃった通り、東方文化は共生です。私が存在するとともに、あなたも存在できます。現在の資本主義のキリスト教の文化は共生を強調しなくて、「私」しか存在しません。これは、ラテンアメリカ、アフリカのあらゆる行為から見えます。だから文化の面で大きな相違があるのです。

和譲、和諧が主題（張可喜）

小松先生はこのテーマを選んで、和譲、和諧を二つの主題に、特に東方文化の中心を強調なされます。また、四カ国語に翻訳され、東方の文化を発揚するために尽力されました。先ほど駱先生も言いましたが、この本が世界に向かうことは可能です。この本を通して東方人だけではなく、西洋人に東方文化を理解させます。

今後の社会、世界の中で、東方文化は重要な位置を占め、人類社会の進む方向にさえなるかもしれません。戦争はだめです。米国のように、ベトナムで戦ったり、朝鮮で戦ったり、さらにイラクなど、このように戦争を続けるならば、西洋文化を世界に広められません。彼らは民主、自由、人権などの概念を主張しますが、これだけでは駄目です。「和」の思想、あるいは「自分とともに、他人を存在させる」という価値観が必要です。

中日交流の面でも役割を果たします。昔の日本は「同祖同族」を主張しました。中日両国の文化は深い関係があり、違いが大きくなっても、基本的なものを保っています。しかし一部の自民党の指導者、小泉元首相にしても、今の麻生首相にしても、学術界さえ「われわれの日本文化はあなたたちの中国文化とぜんぜん違う」と思っています。できるだけ中国式を超えたいと思うのですけれども、中国文化の根本的な影響を抜け出せません。



つまり、この本の出版は中日両国の国民に、中日文化の共通点を理解させ、両国文化の交流を深めます。

以上の二点から見ると、小松先生はとてもすばらしいことをしました。孟社長もすごいことをしました。小松先生がさらに努力を重ね、中日友好を促進するため貢献することを望んでいます。小松先生はもっと遠大な理想があり、国民国連をつくりたいと思っておいでですが、それは良い事で、私は心より支持いたします。

張承鈞・元盧溝橋抗日記念館館長　唐副館長から小松社長が北京にいらっしゃることを教えていただき、とてもうれしく感じました。八年前、小松社長はわが記念館に大きな支持を与えて下さって、百名もの日本人の友人を連れてわが館に見学にいらっしゃいました。小松先生は中日友好のために貢献されました。心から感謝します。

私は退官しましたけれども、古い友人として小松先生とこれからも会いたい。今日は会場に着いた後、孟社長、駱さんからこの本のことを教えていただきました。駱さんは私の古い友人です。さっきざっと読み、とても喜んでいます。

現在、中国では胡錦涛総書記が提出した「和諧社会を建設する」任務を実行しています。この中国古典名言録は、われわれの「和諧建設」に大きな役割を果たしています。

和諧建設に大きな役割（張承鈞）

この本を読んで教えられるところが多かったです。歴史学者、教授が「和諧萬歳」を出版しました。あの本もとても良いけれども、駱さん言ったように、この本は中華文化の歴史を掘り起こしました。特に今、全世界で孔子ブームが巻き起こっています。われわれに対して大きな支持を与えてくれました。

小松先生のご成功を心からお祈りします。

唐暁輝・中国人民抗日戦争記念館副館長　今年十月、私たちは日本の京都で開かれた第六回国際平和博物館会議に参加しました。そこで小松先生に出会いました。彼の講演を聴いて、長い間、平和理念を広めるため色々な事業を行われて来たことを理解しました。そのときは、わが記念館にいらっしゃったことがあるとは知りませんでした。

（**張**　何度もいらっしゃったことがあります）

唐　小松先生に敬意を表したいです。日本で会ったとき、この名言録を頂きました、とてもすばらしい本です。これの文化の根は中国にありますが、日本人としてこの本を出版するため、こんなに大きな精力を注がれたことに、もう一度敬意を表したい。今日は、お招きありがとうございます、とてもうれしいです。

また、編集者、翻訳者及び出版社の方をご紹介いただき、大変苦労されたことが分かりました。原文の翻訳もありますし、それから白話文の翻訳もあります。その苦労は想像に難くありません。

どのぐらいの典集、何本の名言を編集されましたか分かりません。

（**孟**　六百二十四本、最初は八百数本を選びましたが、変更しました）

唐　この六百二十四本の名言の編集が非常にたいへんだったと思います。出版社としてこんなにたいへんなことを積極的にやりとげられ、とてもすばらしいと思っています。

次は、どのように広めるかを話したい。駱先生から全世界に広めると聞きましたが、私の意見はまず中国人にどのように広めるか。たとえば学生、今の子供たちは古典をあまり知らないのです。私たちは博物館に勤務していますが、歴史を理解しない学生たちがおおいなかで古典は言わずもがなです。

文化を学ぶにはソフトパワーも必要です。まず学生にこの本を教えるべきです。さっき、駱先生から小冊子の提案が出されましたが、それを組みあわせて、学校で講座を行なうなどの方法を通して、周りに広めるべきです。出版で「おしまい」ではなく、広めることが今後のとても重要な仕事だと思います。

駱　先ほどは一つの面だけ言いましたが、もう一つあります。台湾で出版された古典はレベルがそんなに高くないのですが、長所もあります。漫画の形なので子供には理解しやすいのです。良く分からないところが、漫画を見るとすぐわかりました。

将来、この本を普及させるならば、挿絵があったほうがいいです。台湾での本を一冊買えば参考になると思います。

大濱　私の言いたいことはすべて皆さんに言われましたが、今回の翻訳に参加させていただき、具体的な内容に興味が生まれました。この場を借りて、感謝の意を表します。質問がありますが、どうして簡体字ではなくて、繁体字で説明文書を書いたのですか。

孟　わが出版社はたくさんの中国歴史書籍を出版し、すべて繁体字でした。これは中国国内だけではなく、香港とマカオも考慮しますから。読者の範囲は内陸とは限りません。もちろん繁体字なら内陸の人も読めます。

駱　若い人に対しては、やはり簡体字のほうが良いと思います。

孟　それは直すのは簡単です。

李暁明・大連三高機電控制有限公司　今回貴重な機会を頂き、非常に光栄です。まず簡単に自己紹介させていただきます。日本に留学したときに小松社長と出会いました。十七、八年前のことです。当時、私が勤めていた会社は、小松電機産業と業務の往来がありました。

それまでは小松社長が世界平和、および中国古典、天地人の儒学に関心を持っていることを知りませんでした。初めて小松社長と中国旅行したとき、南京大虐殺記念館、北京盧溝橋、台児荘戦役記念館など多くの記念館を訪問しました。

小松電機へ訪問するたびに、彼の新しい理念を伺います。「天地人和（天のとき 地の利 人の和）」、十数年前に彼はこの思想に言及していました。わが国の「和諧」という言葉を誕生した後に、「和譲」をつくったのではありません。

私たちは知り合って、すでに十数年になりました。十数年前に彼にはすでにこの思想があって、ますます豊かになっているのです。私たちは会う機会は少なく、会っても顔を合わせる時間がそんなに長くありません。最大一、二週間です。小松社長はなぜこんなに多くの思想をもっているかはっきり理解することができません。

四年前にこの名言録のことを聞きましたが、今日はここでこの本を拝読させていただき、とても光栄です。今日初めて読みますが、ざっと読むと、その内容の広範さに、びっくりしました。

私が理系ですので、このような広範な内容を読み、非常に感心しました。

小松　中国古典名言録出版の歴史的、今日的意義に共感、高い見識で出版に取り組んでいただいた孟白学苑出版社社長をはじめ、プロジェクト関係者の皆様に心より感謝申し上げます。出版に至るまでの経緯を詳しく伺い、大変感動致しました。

中国の和諧世界、米国のスマートパワー、韓国のオウトピア、これらの構想と日本の和譲が出会い、従来の国連とともに、新たに国民国連が誕生することを願っています。

中国、韓国の歴史、特に近代史について関心が生まれたきっかけは、三十年前、初めての海外旅行で行った戒厳令下の韓国で、ある事件に遭遇したことです。

戦争には戦前責任、戦争責任、戦後責任の三つがあり、私たちは戦後責任を果たす世代です。アインシュタイン博士の「歴史が行き詰ったときに日本の役割が来る」という予言を知ったのがきっかけとなり、特に日本と朝鮮半島は、中国やそのほかの国々の理解を得る中で、歴史の転換期に人類史的な役割を果たせる地域であり、時代は今であると確信するに至りました。

張可喜先生が新華社通信日本代表をお務めになっていたときに出会いがあり、私の活動を初めて中国に紹介していただきました。また、今日お越しの邢雁先生ご夫妻、そして本澤二郎先生を通じて張碧清先生、蕭向前先生との縁が生まれ、孟社長との出会いがあり、今日の出版記念フォーラムの開催ができました。

若いころ中国古典の録音テープを繰り返し聞くことと、韓国、中国をはじめ災難を与えた国々の戦争記念館を、訪問団を組織し訪れるなかで、未来を構想する大局的な思考回路が生まれていったように思います。

山東省棗荘は、松江六三連隊が中国側に大きな損害を与え、そして大打撃を受けた台児荘大戦が行われた地です。そこで日中国交正常化三十周年、台児荘大戦六十五周年を記念して、二〇〇二年に、山東省出身の孔子、孟子、そして日本島根県松江市の治水の偉人・周藤弥兵衛翁、清原太兵衛翁の四体の銅像をつくっていただきました。

二〇〇三年に鳥取県の燕趙園に片山善博知事のご決断でその孔子・孟子像を建立いただきました。二〇〇六年にはさらに事業家の内海弘子さん、画家の寺岡多佳さんの縁で清時代に漢白大理石でつくられた、日本の七福神の源流ともいわれる八仙人像を、また東営市から頂いた孫子の銅像も二〇〇七年に建立いただきました。

そして三カ国語論語をつくり、次に四カ国語による中国古典名言録をつくろうという発想に至りました。

現在は金融経済混乱から、難しい状況が世界を覆っています。あらゆる分野のリーダーは人類の特性から考察して、家庭経営、企業経営、国家経営、地球経営ということまで考えなければ、想定外が次々起こり、経営のできないグローバル時代のまっただなかにいます。人の病気を治す医者・魯迅先生を中医、国の病気を治す医者・孫文先生、周恩来先生を上医と伺ったことがありますが、グローバル化した現代においては世界が病気になっており、私たち一人一人が問われているといえます。

このような状況に、陰陽という中国の考え方を入れると、陰にあたる国家代表でつくられた国連と、陽にあたる人類の英知を生み出す国民国連の、二つを必要とする時代が来たといえるのではないでしょうか。

われわれの世代は戦争責任はありませんが、戦後責任があります。かたときも加害者側の国民であるということを忘れてはならない。それをベースにものを考える知恵と勇気と胆力が生まれる志が必要不可欠と考えています。

人類が現在、核の拡散、地球温暖化、あるいは世界的な健康問題など、大きな問題に向きあっているときに、皆様から大きな勇気をいただきました。

特に今年は北京オリンピックが大成功のうちに終わり、「朋遠方より来る、また楽しからずや」が世界を覆いました。ときを同じくして中国古典名言録が完成したことは、不思議な力を感じております。

来年は七三一部隊で広く知られている中国黒龍江省ハルピンで、安重根義士による日本の初代首相の伊藤博文公の射殺事件が起こり、その後の日韓併合から百年を迎えます。核拡散が身近に迫った現在、安重根義士の東洋平和論は、世界平和に対して重要な問いかけをしているように思われます。

研究所のホームページが現在五カ国語で載っていますので、ご指導、ご批判を賜れば幸いに存じます。

張燕嬰博士▶

馬金忠山東省棗荘市共産党委員会書記、王利文中国太平洋経済合作全国委員会工商委員会秘書長、韓喜凱孔子基金会長、王久祜山東省海外聯誼会長、駱承烈曲阜師範大学講師文化学院教授、曹連傑山東省棗荘市副市長、林広侠台児荘記念館長、馬光武中華五一五平衡技術総裁、青島市邢立志さん、孟鵬さん、孔健さん、王少普上海交通大学教授、陳啓懋教授、朱成山侵華日軍南京大虐殺遇難同胞記念館館長、李雪梅さん、韓国東宇技研の曹秀煥代表理事、金顯哲元MBC副編成局長、尹鎬重監事、朴維徹檀國大学理事長・元国家叙勲庁長、金時佑(財)加羅国史跡開発研究院理事長・月刊市民時代の徐世鎬編集局長、李ヨンヒ元西大門刑務所案内員、安應模安重根義士崇慕会理事長・元内務部長官、金鎬逸安重根記念館館長、李恵均安重根記念館部長、朴祥俊黄海道道民会会長、趙正源世界テコンドー連盟総裁、宋錫源慶熙大学校教授、康熙奉さん、李燮潤韓国民団島根本部団長、エリ・コーヘン元イスラエル大使、千家尊祐出雲大社宮司、千家達彦管長、千家隆彦権宮司、千家国麿禰宜、入司道夫KIJ代表理事、下村澄先生、藤田一夫先生、寺島実郎日本総研会長、片山善博慶応大学院教授、川本義永元鳥取県副知事、安齋育郎立命館大学平和ミュージアム名誉館長、高杉巴彦平和ミュージアム、高多彬臣さん、坂根徹湯梨浜学園理事長、本田斉燕趙園元園長、伊勢桃代先生、斑目力曠エーエムアール代表、江島優東京エグゼクティブ・サーチ会長、小山秀夫光洋電子元社長、宇野健二光洋電子元常務、一色宏先生、山元雅信山元学校学長、具末謨さん、大脇準一郎未来構想戦略フォーラム代表、並河慶子さん、藤岡正博さん、田代かず子北朝鮮帰還の日本人妻自由往来実現運動の会事務局長、大場淳二ワン・ピースフル・ワールド代表、藤原直哉先生、大和田良大さん、杉原弘一郎東京印刷会長、八幡垣睦子さん、八幡垣志保さん、作家の交易場修さん、中藤弘彦さん、ばばこういちさん、初代事務局長の佐々木武男理事、前田純二さん、研究所理事の内藤正中島根大名誉教授、山本謙理事、医学博士、理事の古賀隆昭大昌代表取締役、理事の坂本巌、研究員の魏亜玲博士、堀江研次さん、藤井雅樹さん、白坂芳子さん、須藤文義さん、小谷忠延さん、藤井雄志さん、川中学さん、尹熙竣さん、徐佳さん、小松志津子理事をはじめ、みなさまに心よりの感謝申し上げます。